

将来ビジョン策定に向けた 意見聴取の結果について

- I ワーキンググループ
- II 利用者アンケート

2025.12.11（木）

徳島阿波おどり空港将来ビジョン検討会議



I 将来ビジョン策定に向けたスケジュール

I-1 将来ビジョン策定に向けたスケジュール

8月8日 第1回 徳島阿波おどり空港将来ビジョン検討会議

○取組の方向性や目指すべき将来像について議論し、取組の方向性を次のカテゴリーに分類
① 航空ネットワークの維持・拡充 ② 空港施設の機能強化・魅力向上 ③ 二次交通・利便性向上

将来ビジョン策定に向けた意見聴取

8～10月 ワーキンググループ開催(全4回)(8/21,9/16,10/2,10/15)
専門家等による現場目線の意見を聴取

- ・各現場課題の抽出
- ・今後の取組の検討

10月 利用者アンケート実施(10/1～10/31)
空港利用者からの意見を聴取

- ・空港の改善点
- ・今後期待すること 等

意見聴取の結果を踏まえ、課題等に対応した必要な取組を整理し、
「徳島阿波おどり空港将来ビジョン概要(案)」を取りまとめ

本日 第2回 徳島阿波おどり空港将来ビジョン検討会議

○意見聴取の結果(WGからの意見、利用者アンケートの結果)
○将来ビジョン概要(案)

1～3月 第3回 徳島阿波おどり空港将来ビジョン検討会議

○「徳島阿波おどり空港将来ビジョン」の策定

策定後 「徳島阿波おどり空港将来ビジョン」を県に報告

Ⅱ ワーキンググループの開催結果

Ⅱ-1 ワーキンググループについて

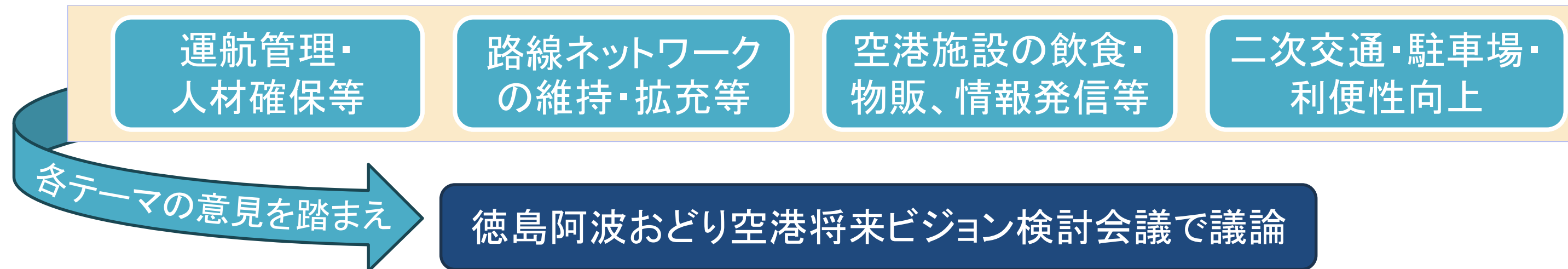
設置目的

「徳島阿波おどり空港」将来ビジョンの検討に当たり、専門家等による現場目線での意見聴取を行うため設置

所掌事項

- 徳島阿波おどり空港の「航空ネットワークの維持・拡充」に係る意見聴取
- 徳島阿波おどり空港の「空港施設の機能強化・魅力向上」に係る意見聴取
- 徳島阿波おどり空港の「二次交通・利便性向上」に係る意見聴取
- その他、徳島阿波おどり空港の将来ビジョンの検討に必要な事項

ワーキンググループの開催



→8月～10月にかけて計4回WGを開催し、専門家等から意見聴取

Ⅱ-2 ワーキンググループ参加団体

ワーキンググループには、テーマ毎に専門的・現場目線での御意見をいただくため、**合計40団体**に参加いただき、意見聴取を実施

○航空・交通関係事業者・団体(計17団体)

- ・日本航空 ・全日本空輸 ・エアトラベル徳島 ・徳島航空サービス ・総合ビル・メンテム
- ・ライジングサンセキュリティサービス ・シェル徳発 ・空港振興・環境整備支援機構 ・高松空港
- ・徳島空港ビル ・日本通運 ・四国旅客鉄道 ・徳島県バス協会 ・徳島県レンタカー協会
- ・徳島県タクシー協会 ・ノヴィルホールディングス ・電腦交通

○観光・物産・経済関係事業者(計11団体)

- ・エイチ・アイ・エス ・徳島県観光協会 ・イーストとくしま観光推進機構 ・そらの郷 ・みなみ阿波観光局
- ・中国四国博報堂 ・徳島県産業国際化支援機構 ・全農とくしま
- ・商工会連合会 ・商工会議所連合会 ・中小企業団体中央会

○行政団体(計12団体)

- ・大阪航空局徳島空港事務所 ・高松出入国在留管理局徳島出張所 ・神戸税関小松島税関支署
- ・広島検疫所坂出出張所 ・神戸植物防疫所坂出支所小松島出張所 ・動物検疫所神戸支所四国出張所
- ・徳島市 ・鳴門市 ・松茂町 ・東かがわ市 ・南あわじ市 ・徳島県

Ⅱ-3 航空ネットワークの維持・拡充

分類	頂いたご意見	必要な取組・対応案
既存路線の利用促進	短 徳島の魅力はまだ十分に知られていない。<u>首都圏での知名度アップ</u>が必要。 短 あまり知られていない<u>県内観光地</u>の<u>プロモーション</u>を強化すべき。	短 国内誘客プロモーションの強化 航空会社との連携を強化し、首都圏での集中的な誘客プロモーションを行うとともに、路線就航地である福岡・札幌での認知度向上プロモーションの継続的な実施
	短 韓国便は便数が増えれば、利便性が高まり利用者が増えると思う。 短 旅行会社と連携し、<u>空港からの着地型ツアーやインバウンド向け商品の拡充</u>も重要。	短 国際定期便の定着と増便を見据えた利用促進施策の展開 韓国線利用者のさらなる増加に向けて、インバウンド誘客に向けたプロモーションの展開
	- 空港利用者の増加には、<u>淡路島や香川県東部からの利用圏域拡大</u>が重要。 - 国際定期便の路線維持のため、<u>徳島空港発のアウトバウンドの掘り起こし</u>等に取り組むことが必要。	徳島発便の利用促進施策の展開 県民への利用喚起や周辺県(東讃や淡路島等)からの利用拡大に向けたPR
	<u>到着先の都道府県と共に割引クーポンや魅力を発信</u>してもらいたい。 - 日本の人口は3割減少し、市場や労働力も減少するため、<u>海外からのインバウンド誘致</u>が必要。	羽田乗継による誘客強化 羽田経由での乗継利便性(ダイヤ)の良い空港(北海道、東北等)と連携した相互PRや欧米豪インバウンドの誘客に向けた取組
	- ビジネス需要がコロナ禍前の水準に戻らないことを前提に、今後、<u>どうやってリピーターを増やしていくのか</u>が重要。 <u>インバウンドはリピーターが多く、ディープな日本や地方特有のモノ</u>を求めている。	リピーター増加に向けた取組 観光客が「また来たい」と思えるような空港の魅力度向上・利便性向上や利用回数に応じた特典制度等の検討
	<u>四国の空港が互いに競い合うだけでなく、連携・協力</u>することで、四国全体の魅力を高め、相乗効果を生み出すべき。 <u>高松空港や神戸空港とは競争でなく、協調・共生</u>で取り組んではどうか。	他空港や近隣県との連携強化 四国他3空港・県や淡路島等と連携した広域観光PRの展開

短 … 中長期を見据え、短期的に直ちにに取り組むべき項目

Ⅱ-4 航空ネットワークの維持・拡充

分類	頂いたご意見	必要な取組・対応案
新規路線の誘致	① 国内外を問わず、各地域を結ぶチャーター便の就航 ② ニーズやマーケット分析をした上での他県間を往来する徳島空港への便の拡大 ③ 県民が行きたいところに行けるよう新規路線を開設してほしい。	① 利用者アンケート結果や近隣空港の就航状況等を踏まえた戦略的な路線誘致 ニーズ調査や利用実態等の需要分析を踏まえた誘致ターゲットの設定
	・ LCCの活用の検討 ・ 格安航空会社の誘致 ・ 国際線への乗継ができるようにしてほしい。	・ LCC誘致による需要の拡大 県民の旅行の選択肢を増やすとともに、国内外への航空ネットワークをさらに拡大
受入体制の強化	① 職場環境の改善（暑さ、寒さ対策、合羽乾燥施設等） ② 空港で働く従業員の休憩場所の確保（国費等の活用）。 ・ 国際空港にするなら、まずは設備投資と適切な人員配置が必要。	① グランドハンドリング等の充実 増便による従業員の増加等を見据えた空港事業者が行う採用活動や新規採用者の教育訓練への支援の充実、職場環境の改善・満足度向上
	・ 羽田線をしっかり飛ばしながら路線数を増やしていくのがよいのでは。 ・ 羽田便の増便、札幌便の通年運航を希望。 ・ 国際線を増やして欲しい。 ・ 13時台の便があれば、飲食店が賑わうと思う。	・ 共用空港としての自衛隊との連携強化 既存便の増便や利便性向上、新規路線の誘致に向けた自衛隊との連携強化

Ⅱ-5 空港施設の機能強化・魅力向上

分類	頂いたご意見	必要な取組・対応案
空港の魅力最大化に向けた取組	① 産直的な商品かつ空港ならではの、「ここに来ないと買えない」という商品などが空港にあればよい。 ② 棚に陳列するだけでなく、ストーリー性やエンタメ性を持たせたディスプレイ、ゾーニング、商品セレクトなど工夫が必要。 ・ アーティストとのタイアップによるオリジナル商品が成功している事例あり。	① 県産品や空港限定品等の物販の充実 県内各地の特産品や伝統工芸品を空港に集約し、徳島をまるごと体感できる施設化やそれを目当てに空港に訪れたいとなるような、空港限定品等の販売
	③ 空港での観光情報提供の強化 ④ 広告媒体としてのデジタルサイネージの活用が少ないのが課題 ⑤ 1F大型ビジョンの有効活用（パブリックビューイング等）	② 来県者への効果的な情報発信 案内表示や館内広告のデジタルサイネージ化による発信力強化や視認性が高い場所での案内表示の配置
	・ 「徳島らしさ」の追求が必要 ・ 地域特産品を扱うフードコートなどの検討。 ・ 飲食店が少ない：地元料理など魅力的な店舗、地元民でも行きたいと思う美味しい料理屋さん、またはカフェ、飛行機の発着の様子が楽しめる店を設置。 ・ キッチンカー等の誘致により空港ユーザーの飲食時間の充実を図る。	・ 徳島らしさを感じられる飲食の充実 キッチンカーや県内人気店のポップアップ出店など、豊かな自然・食を活かした徳島の魅力が体感できる飲食等の充実
	・ 徳島空港でもフォトスポットの設置やSNS発信が増えればよいと思う。 ・ 「ここに来れば何かがある」と思ってもらえる、目的地としての魅力づくりが重要。 ・ イベントスペースや物販スペースの充実が必要。 ・ 県民に空港を身近に感じてもらう努力が必要。 ・ キッチンカーを呼んだり、子ども向けイベント、空港内ツアーなどを定期的 に開催し、日常的に空港へ来てもらう仕掛けが必要。	・ 航空機を利用しない人も行きたくなるようなコンテンツづくり 空港内でのイベントやフォトスポットの更なる充実や子育て世代や地域の人を楽しめるスペースの充実等を推進

Ⅱ-6 空港施設の機能強化・魅力向上

分類	頂いたご意見	必要な取組・対応案
空港の機能強化	① 空港内のレイアウトについても動線を意識して、こういったところに何を配置することが利便性の向上につながるのかを意識して検討する時期がきている。 ② 1階ロビーは、国際線の団体客と一般旅客が入り交じって混雑しており、ベンチのところで国際線の旅客が荷造りをしていることもある。	① 利用者目線によるロビー等の配置適正化 混雑している1階到着ロビー等における動線の見直し
	③ 観光・ビジネス利用客の利用者側に立った空港機能の改良・改善。 ④ 待合スペースなど、空港内のインバウンド対応（多言語対応、キャッシュレス化など）。 ⑤ 大鳴門橋自転車道の完成（R9年度予定）を見据えて、空港内への自転車関連施設や観光案内所の設置が必要。 老朽化した設備（エスカレーター・カーペット等）をしっかりと改修していくことが必要。	③ 国内外からの観光・ビジネス利用客に対する利便性の向上 インバウンド対応や設備等の老朽化対応等、利用者ニーズに対応した機能強化
	- 入国審査場のキャパシティが不足している。 - 待合スペースの拡充：搭乗口付近の座席数が少なく、混雑時に座れないことがある。 - 保安検査場前スペースの拡張（国内線・国際線の入口狭隘による混雑） 1Fロビーの拡張（国内線・国際線チェックインカウンターの視認性）	将来的な利用者増加を見据えた空港ビル施設の増築 既に逼迫している現状や今後の新規路線の誘致を見据え、空港利用者数増加に対応した空港ビル施設の増築を検討
	- 徳島空港には日中の便に相当な貨物スペースがあり、有効活用が必要。 - 現在の貨物輸送は関西・中部方面が多く、関東市場へのアピールが不足している。	航空貨物の利用促進 新鮮な県産品等のさらなる販路拡大に向けた取組を関係者とともに展開
メンストク力強化	災害備蓄品や防災用品の充実など、災害発生時における各関係機関との連携・連絡体制の構築	災害時等のリスク対応力の強化 関係機関との連携強化により、災害時の円滑な支援に資する施設としての役割強化

Ⅱ-7 二次交通・利便性向上

分類	頂いたご意見	必要な取組・対応案
二次交通の充実	① 空港から<u>主要な観光地への直行バス</u>を運行することも検討すべき。 ② <u>鳴門方面へのアクセス</u>が一つの大きな課題であり、鳴門駅での乗換え情報などを発信することで利便性が高められるのではないかな。	① 空港⇄主要観光地のアクセス向上 既存の交通モードとの連携・情報の充実、空港と観光地を結ぶ新たな路線の検討
	③ 外国人向けの<u>多言語化</u>や見やすい表示などの工夫が必要。 ④ 来春には、<u>交通系ICカードの利用</u>が可能となり、利便性が向上する。	③ インバウンド客への対応強化 交通系IC等のキャッシュレス決済の導入や多言語対応の推進
	- 徳島空港と淡路島を結ぶ<u>バスの運行</u>しており、予約制の導入などを進めているが、利用客数は横ばいの状況であり、<u>より魅力的な移動手段</u>としていく必要がある。 - 県西部の利用者等を徳島空港へ呼び込むには、<u>バス等の二次交通の拡充</u>が重要。	周辺県(淡路島等)との広域連携 周辺県・自治体との連携による、淡路島などへのアクセス向上
	- レンタカーは最終便などの<u>遅い時間での対応</u>が難しい。 - カーシェアは、都会から来る方が会員登録をして利用しており、需要はある。 - カーシェアの場所も<u>空港の駐車場近く</u>に持ってくれば利便性が向上する。 - カーシェアについては、空港からの動線が暗く、草も生えていて、利用者にとっては使いづらいという声がある。	レンタカー・カーシェアニーズの対応 ターミナル近辺でのカーシェア設置スペースの確保などの利用者の更なる利便性向上
	<u>二次交通利用時のデジタル化</u>に取り組むべき。 <u>「Uber」等のタクシー配車アプリは、キャッシュレスで支払ができるため、東京などで慣れている人には導入メリット</u>が大きい。 <u>自動運転バスの導入</u>など新たなモビリティの活用。	交通DXの推進 配車アプリやMaaSの導入、自動運転技術の導入を推進

分類	頂いたご意見	必要な取組・対応案
駐車場の利便性向上	短 空港の利用促進と改革は避けては通れない課題であるため、利用者増加を見据えて、<u>立体駐車場などの設備投資も重要。</u> 短 増設や利用料金の設定、予約制の導入などの検討。 ▪ 駐車場からの出庫の際、混雑する場合があるため<u>事前精算方式</u>が導入できないか。 ▪ 雨天時は駐車場からの移動で濡れてしまうので、濡れないよう整備を。	短 利用者増加を見据えた区画増設や立体駐車場化などの利便性向上の検討 国や運営事業者と連携し、空きスペースの分かりやすい表示や事前精算機の導入、立体駐車場化などを検討
	▪ <u>淡路島や香川県東部からの利用圏域拡大が重要。</u>これらの地域からの利用促進策として、<u>駐車料金の優遇サービス</u>を提案する。	▪ <u>関係機関が一体となった利用促進に向けたキャンペーン等の実施</u> 周辺県からの利用に対する割引等による利用圏域の拡大
誘導サイン・乗り場の利便性向上	短 空港からの交通手段は様々なものがあるので、<u>乗り場までの移動がスムーズになるように、案内表示等の視認性を高める必要がある。</u> 短 到着ロビーが混雑している際には、<u>レンタカーの受付場所やバスやタクシーの案内表示が見えづらい。</u> 短 到着ロビーにある<u>レンタカー受付は、多くの予約が入っていると待つ場所がない。</u>	短 <u>案内表示の視認性向上や動線の見直し</u> 新たなレンタカーカウンター等の設置
	▪ <u>Uberをはじめ、タクシーを呼ぶ手段、到着手段の多様化に伴い、誤乗車防止のため停車場所を分けるなど、円滑な導線を確認するといった改善も必要。</u> ▪ 空港駐車場内に、①<u>タクシー予約車両用スペースの新設</u>、②<u>ホテル送迎バス停留所の新設</u>、③<u>レンタカー利用者送迎車両用スペースの拡充</u>をご検討いただきたい。	▪ <u>バス・タクシー・送迎車両等の円滑な導線確保</u>

短

利用者増加を見据えた区画増設や立体駐車場化などの利便性向上の検討

国

や

運

営

事

業

者

と

連

携

し

、

空

き

ス

ペ

ー

ス

の

分

か

り

や

す

い

表

示

や

事

前

精

算

機

の

導

入

、

立

体

駐

車

場

化

な

ど

を

検

討

Ⅲ

利用者アンケートの結果について

Ⅲ-1 利用者アンケートについて

○ビジョン策定に当たり、利用者・県民の意見を反映するため、アンケートを実施した。

○実施期間

令和7年10月1日～10月31日

○調査対象

徳島県民、徳島空港利用者

○回答方法

インターネット（アンケートは選択式）

○調査項目

①空港の「魅力向上」・「利用者の利便性向上」

②「航空ネットワーク」に期待すること

③「正面駐車場」・「二次交通」の利便性向上

④その他（自由記述）

○回答者数

延べ388人



徳島阿波おどり 空港
Tokushima Awaodori Airport

利用者アンケートを 実施します！

徳島阿波おどり空港の「将来ビジョン」を策定するに当たり、
利用者の皆様からのご意見を募集します！

期間
令和7年10月1日（水）～10月31日（金）

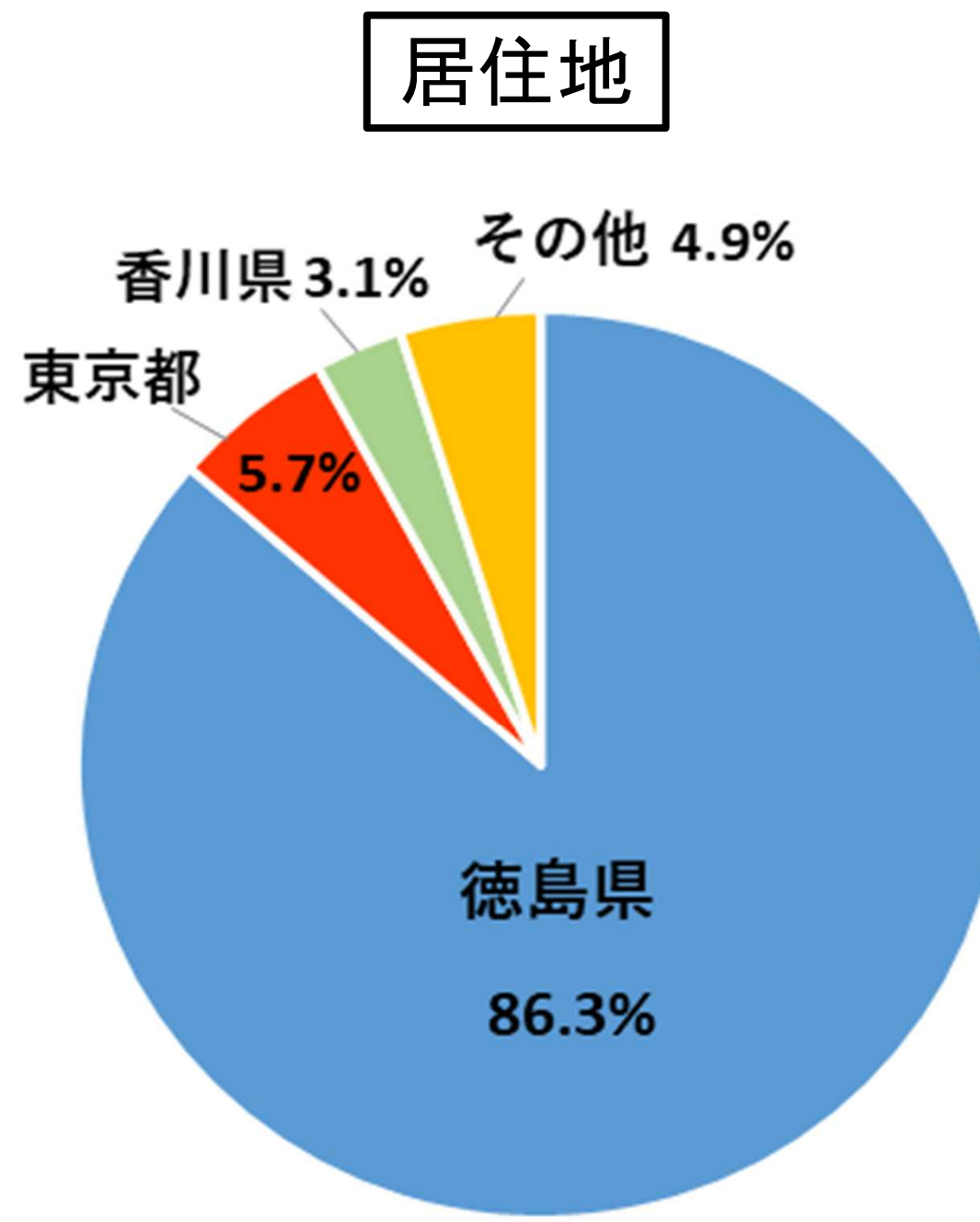
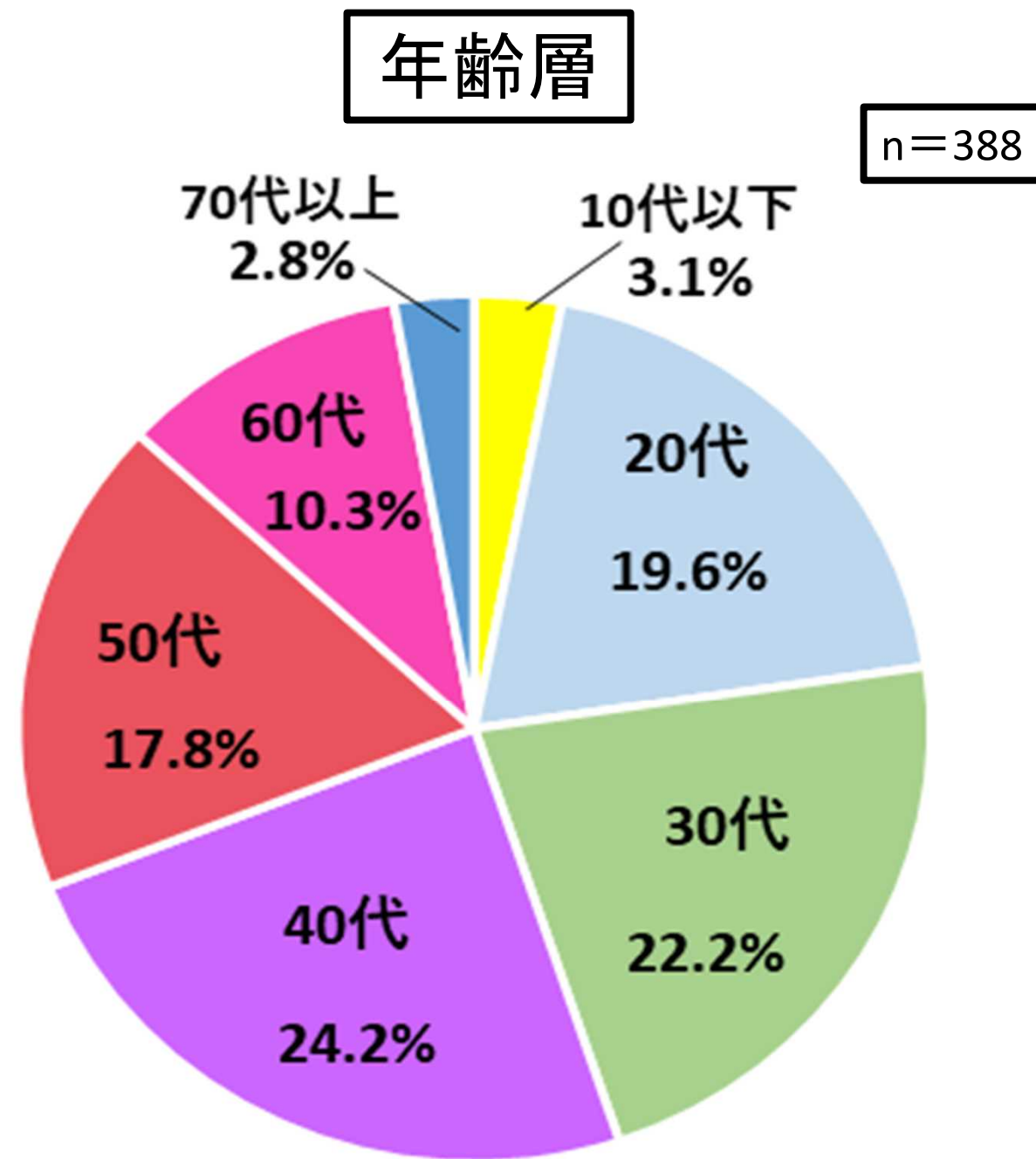
回答
右の二次元コードからご回答ください。



お問い合わせ先

徳島県観光スポーツ文化部観光誘客課 受入環境担当
電話：088-621-2290
メール：kankouyuukyakuka@pref.tokushima.lg.jp

Ⅲ-2 回答者の基本属性



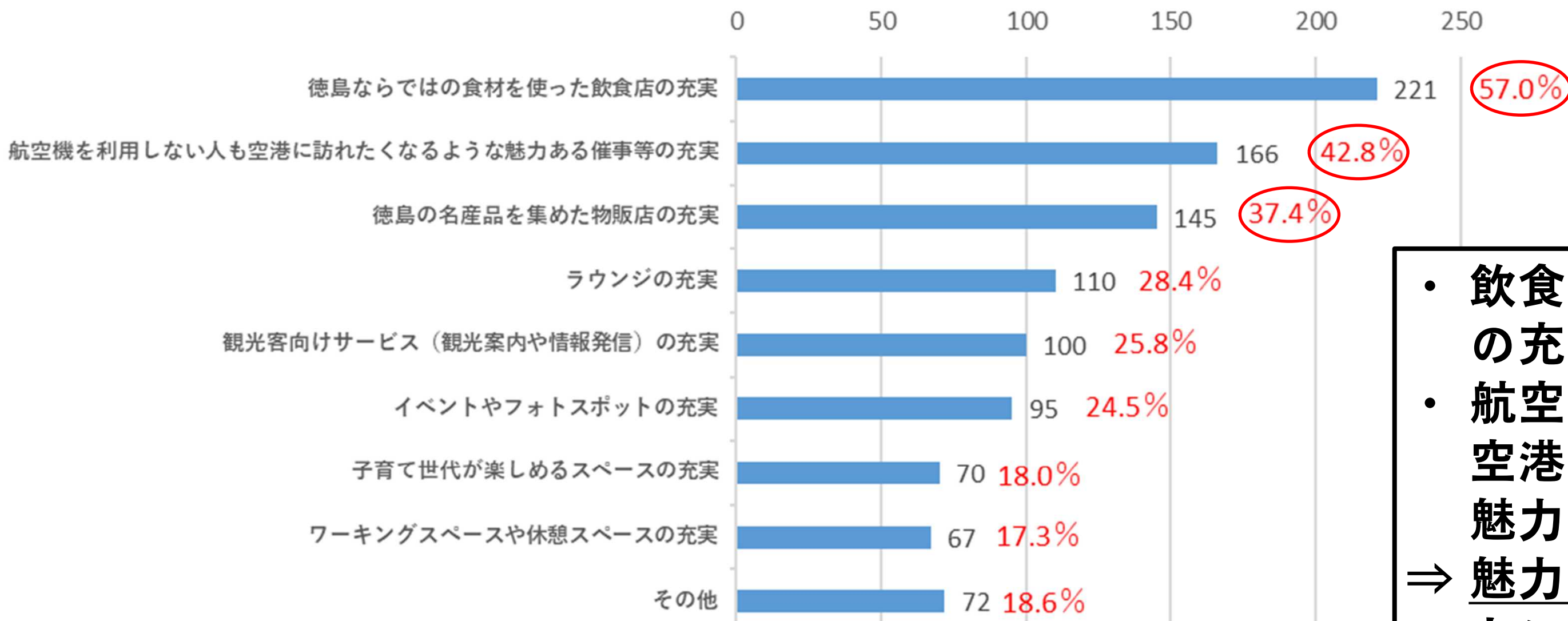
＜その他の内訳＞

- ・北海道、東北地方(1.3%)
北海道、青森県
- ・東京を除く首都圏(1.0%)
神奈川県、埼玉県、千葉県
- ・近畿地方(0.8%)
京都府、大阪府、兵庫県
- ・中国地方(0.3%)
島根県
- ・四国地方(0.8%)
愛媛県
- ・九州地方(0.8%)
福岡県、熊本県

- ・年齢層は、各層幅広く回答いただいた。
- ・居住地は、県内（県民）が大半であり、羽田便で利用者が多い東京都や周辺県である香川県など、全国各地の方から回答いただいた。

Ⅲ-3 集計結果①

①徳島阿波おどり空港の「魅力向上」・「利用者の利便性向上」のためには、何が必要だと感じますか。（複数選択可）



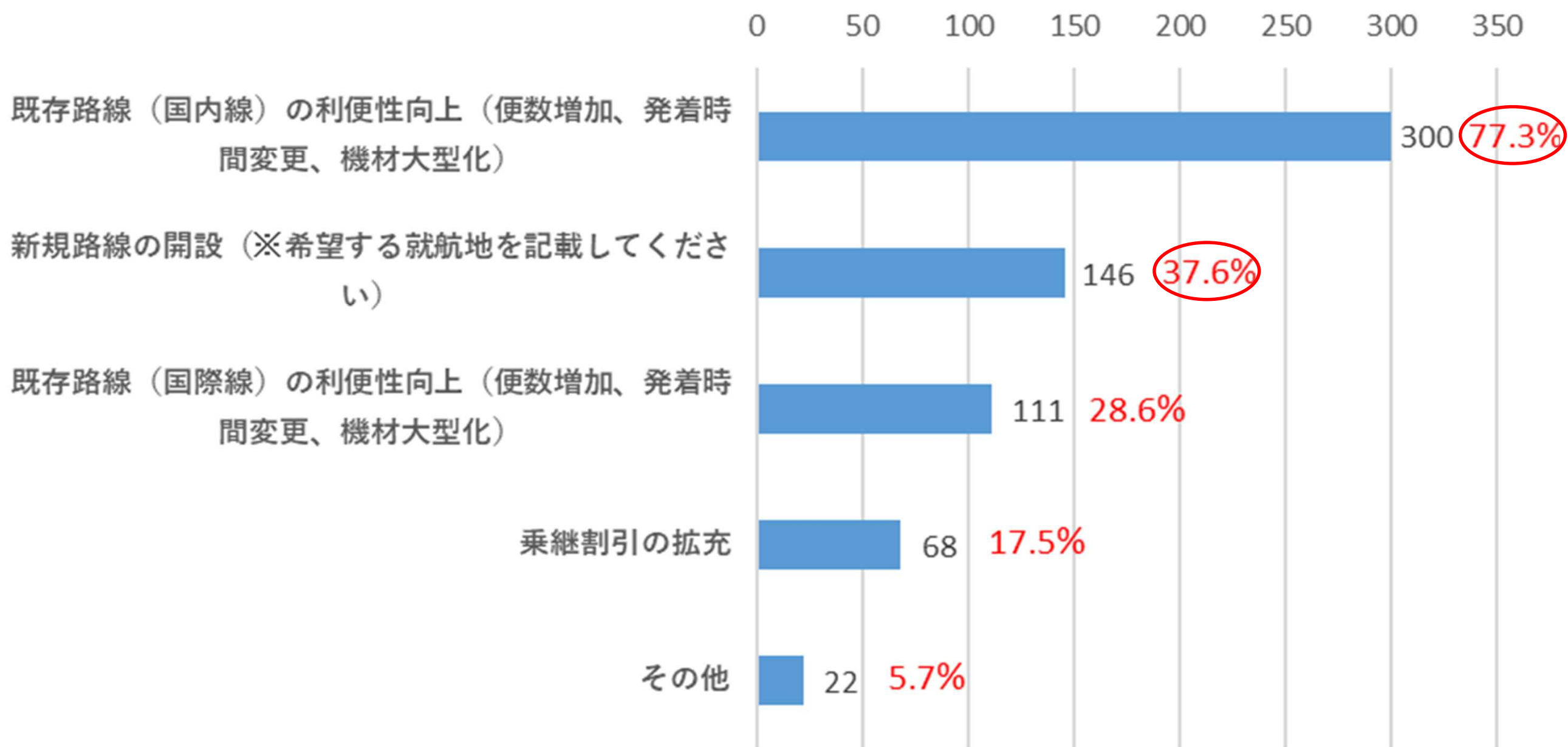
- ・ 飲食店（1位）・物販店（3位）の充実
 - ・ 航空機を利用しない人も空港に訪れたくなるような魅力ある催事等の充実（2位）
- ⇒ 魅力的な店舗やイベントが必要
といった意見が多い

その他の回答

チェーン店のカフェの導入、保安検査後のお店の充実、第1便利用の際に朝食を食べられるお店、屋上展望台の設置、子どもを遊びにつれて来れるような場所、キッチンカーのイベント誘致や憩い広場の設置、休憩場所の設置、空港内の多言語・キャッシュレス対応の充実、両替機の設置、授乳室の改善、空港自体の大型化（拡張整備） など

Ⅲ-4 集計結果②

②徳島阿波おどり空港の「航空ネットワーク」について、今後期待することは何ですか。
(複数選択可)



新規路線の開設

<国内線>

1位	札幌（新千歳）	46人
1位	沖縄（那覇）	46人
3位	名古屋（小牧、セントレア）	20人
4位	成田	18人
5位	仙台	11人
6位	東北地方	8人
7位	新潟	3人
7位	長野（松本）	3人
7位	鹿児島	3人

<国際線>

1位	台湾（台北）	16人
2位	タイ（バンコク）	3人
2位	上海	3人

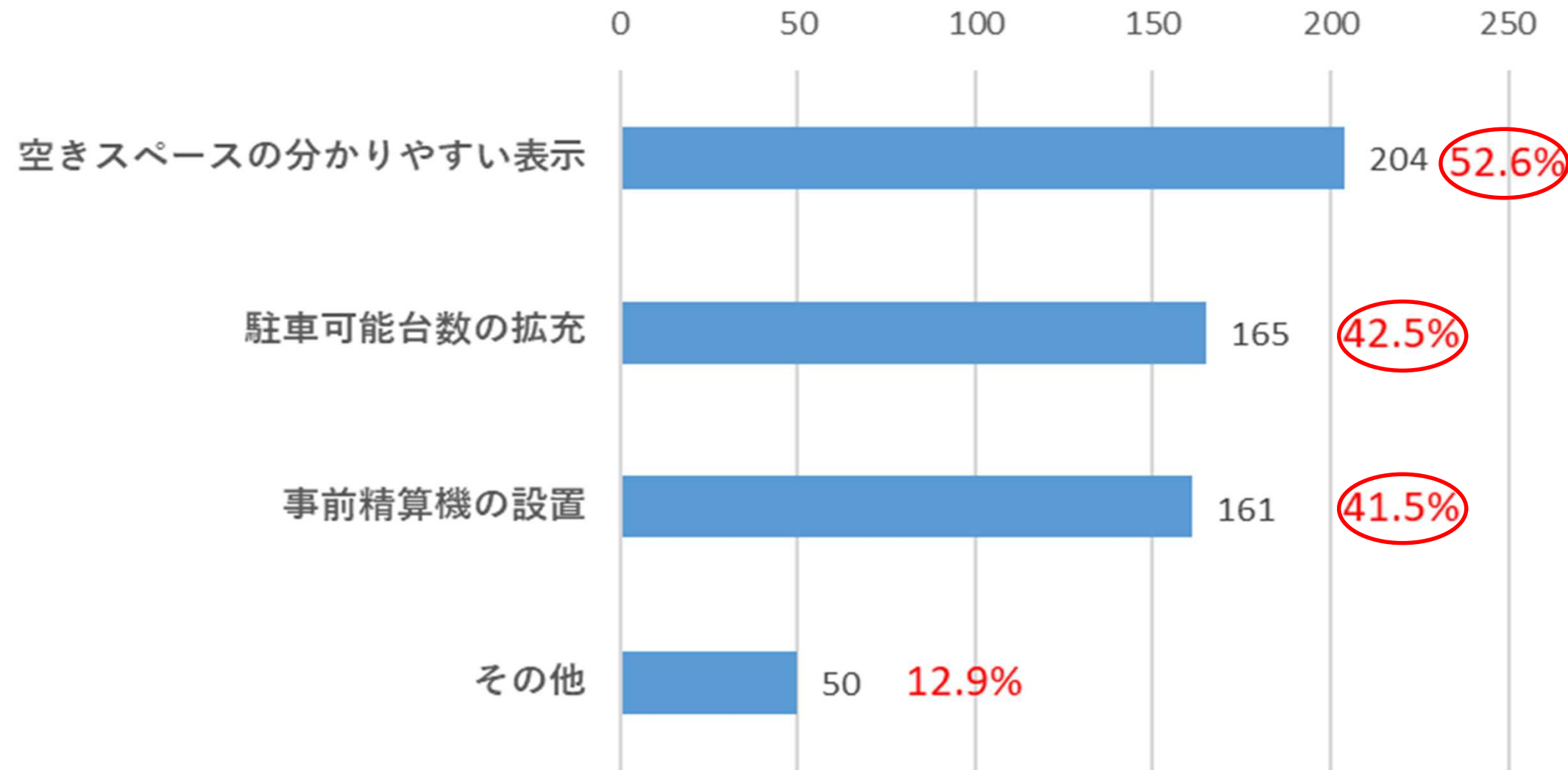
※回答数2人以下は省略

その他の回答

LCCの導入（意見多数）、ANA早朝便の復活、香港便の再開、他の国内空港とのネットワーク強化、四国の空港が互いに連携・協力、空港の運用時間と利用時間の拡大、定時運航、徳島ヴォルティスのアウェイ路線の開設、人気観光地への新規路線開設、近隣県に就航がない路線の開設 など

Ⅲ-5 集計結果③

③徳島阿波おどり空港の「空港正面駐車場」について、
今後の利便性向上のためには、何が必要だと感じますか。（複数選択可）



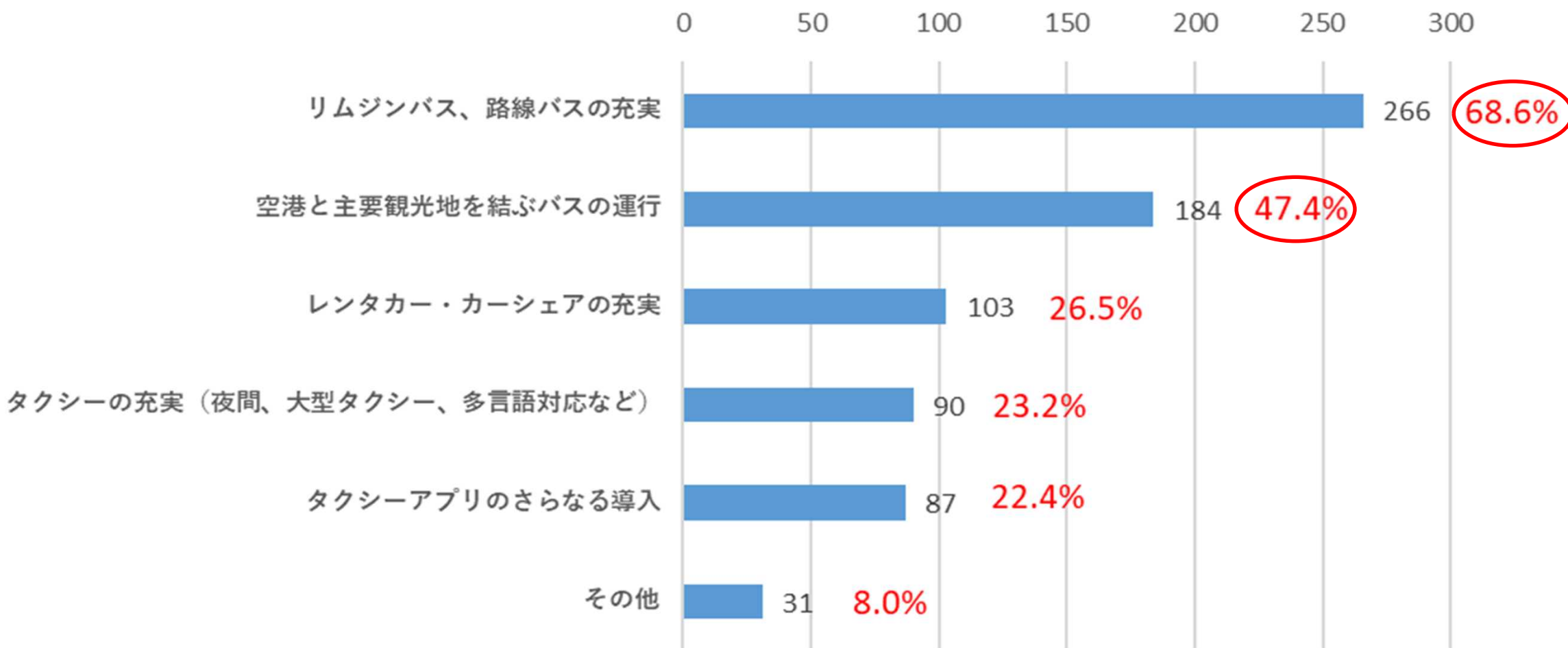
- ・ 空きスペースの分かりやすい表示（1位）が最も高い。
 - ・ 駐車可能台数の拡充（2位）の割合も高く、その他の回答では、「立体駐車場の設置」が必要とする意見が多数あった。
 - ・ その他の意見として、「駐車料金の引き下げ」が必要とする意見も多数あった。
- ⇒ 3項目とも40%を超える回答となり、今後の利便性向上が必要とされていることを示す結果となった。

その他の回答

駐車料金の引き下げ(意見多数)、立体駐車場の設置(意見多数)、長期間利用者への料金サービス、事前割引や県民割引の導入、繁忙期、閑散期に応じた柔軟な価格設定、雨の日に濡れない工夫(屋根の拡充等)、キャッシュレス対応の拡充、立体駐車場を導入し1F部分に店舗誘致やレンタカー受付を設置、駐車場の空港側の歩行者出口を増やす など

Ⅲ-6 集計結果④

④ 徳島阿波おどり空港の「二次交通」について、
今後の利便性向上のためには、何が必要だと感じますか。（複数選択可）

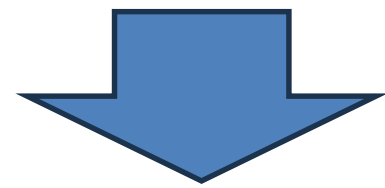


- ・ リムジンバス、路線バスの充実（1位）、空港と主要観光地を結ぶバスの運行（2位）の割合が高く、その他の回答として、「鳴門主要観光地へのバス」を必要とする意見が多数あった。
 - ・ レンタカー・カーシェア、タクシーの充実についても、20%を超える回答となった。
- ⇒ 特に、バスの利便性向上を必要とする回答割合が高く、二次交通の利便性向上が必要とされていることを示す結果となった。

その他の回答

鳴門主要観光地へのバス（意見多数）、バス車体への英語での行先表示、大塚国際美術館への直通バス、松茂バスターミナル・とくとかターミナルとの連携やアクセス向上、三好市から直接バスで行ける整備、中心市街地へのアクセス改善、送迎車の停車可能場所の設置、自動運転バスなど新たなモビリティの導入 など

○WGや利用者アンケートの結果、徳島阿波おどり空港の「あるべき姿」としては、「既存路線の利便性向上」や「国内外の空港への新規路線の開設」が期待されており、また、「魅力的な店舗」や「イベントが開催」されるとともに、「駐車場」や「二次交通」が充実し、多くの方々が徳島に訪れたい空港となることが期待されている結果が得られた。



WG、アンケート結果やこれまでの議論を踏まえ、
「将来像」及び「果たすべき役割」を取りまとめ

将来像

新時代へ躍り出す、世界に開かれた空港

果たすべき役割

- 1) 本県地域経済の発展や豊かな生活を支える国内外を繋ぐ観光・ビジネスや地域の「広域交通ネットワーク拠点」
- 2) “人・食物産・イベント”等の施設機能を新次元のアップグレードを図ることにより、空港の魅力が最大化された徳島の賑わう「交流・発信拠点」
- 3) 旅行者のニーズにきめ細かに対応できるよう、多様な交通モードとの連携等により利便性が向上した「広域周遊観光拠点」

IV

今後の進め方等について

IV-1 今後の進め方について

- 今後、徳島阿波おどり空港が「担うべき役割」を果たし、「将来像」を実現するため、県が主体となり、次の事項を進めていくことが求められる。
- 特に、県の新未来創生総合計画における阿波おどり空港の利用者数120万人（2028年度目標値）を目指し、12項目については、短期的に、直ちに取り組むべき項目とする。

頂いたご意見	今後の進め方
・ 徳島阿波おどり空港の運営に民間の活力を取り入れる「コンセッション方式」の検討を開始する機会になればいいと思う。 ・ 高松空港のようにコンセッションを行い、戦略的な路線誘致を行うべき。 ・ 現在の物販エリアが一つの土産屋のように感じられるため、ゾーニングや商品セレクト、展示スペースなどの一体的な工夫が必要。 ・ 空港の駐車場について、民間活力を活用した空港施設と一体的な空港運営により、立体駐車場や料金設定、予約制の導入等が検討されるのではないか。	コンセッション方式の導入可能性の確認 空港利用者のニーズを的確かつ柔軟に捉えた空港運営を行うためには、各施設の運営主体を一体化し、民間事業者が効果的に運営できるコンセッション方式が有効な手段の一つであると考えられるため、導入可能性の確認を進めることが望ましい。
・ 空港を「飛行機に乗るだけの場所」ではなく、「消費したり楽しんだりする場所」として認識してもらう必要がある。 ・ 徳島空港のイベント情報を周知し、県民に空港を身近に感じてもらう努力が必要。 ・ インスタグラムなどのSNSを活用し、魅力を発信していくことも重要。	県全体の機運醸成 県民が、空港を身近に感じ、魅力あるものとしていくことにより、県全体の機運醸成や合意形成を促進することが望ましい。
・ 関係機関との情報共有、意見交換などにより各機関における新たな課題、その解決に向けた対策等を話し合える場が必要。 ・ 四国の空港が互いに競い合うだけでなく、連携・協力することで、四国全体の魅力を高め、相乗効果を生み出すべき。 ・ 観光部局だけでなく、移住定住担当部局と連携し、関係人口創出に向けた取組等を行うべき。	関係団体との連携強化 将来的な取組の方向性を具体化し、地域と空港のさらなる活性化を図るためには、関係事業者とより一層、連携・協力して進めることが望ましい。